



Title	授業支援システムの活用と学生とのコミュニケーション「日誌」機能の活用についての実践報告
Author(s)	岩居, 弘樹
Citation	大阪大学大学教育実践センター紀要. 2011, 7, p. 1-7
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/6640
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

授業支援システムの活用と学生とのコミュニケーション 「日誌」機能の活用についての実践報告

岩居 弘樹

“Journal” Module in Moodle
— A Communication Channel between Teachers and Students —

Hiroki IWAI

“Journal” is one of the standard modules in the Learning Management System “Moodle”; however, not much information about how to use this module is provided in the class.

Journal is like a learning diary; only the teacher/TAs can read the messages and give comments and/or advice to the students. In my class “German for Beginners,” Journal works as a useful communication channel between the students and the teacher/TAs. The figures for Summer Semester 2010 say that most of the students accessed the Journal module more than twice a week. Further, 8 of the 38 students took more than 800 sessions on my course and read/wrote in the Journal 3 to 4 times a week.

Every week, I would send questions and messages about the class activities, and would ask the students to write answers and comments in response to my questions/messages in the Journal. Some students asked me questions on issues pertaining to grammar that they did not understand in the class while others spoke about their campus activities, daily lives, and their personal lives.

This paper makes suggestions for improving and supporting class activities using this tool.

0. はじめに

授業支援システムは多機能化しており、講義資料の配布やディスカッションボード、レポート提出、アンケートや小テスト機能など様々なサービスを利用できるようになっている。大阪大学では全学の教員・学生が利用できる授業支援システムとしてWebCT¹⁾のサービスを行っているが、利用統計を見る限りでは、講義資料の配布やレポート提出のためのツールとして使われることが多い²⁾。

筆者は、講義科目ではWebCTを使い、資料配布と学生同士でのグループディスカッション、およびレポート提出に活用しているが、外国語演習科目では授業支援システム研究と検証のためにMoodleを利用している。ここでは、Moodleに標準装備されているがあまり活用事例の見られない「日誌」の活用について報告する³⁾。

1. この授業について

この報告では、2010年度に筆者が担当した大阪大学共通教育科目「ドイツ語初級」および「地域言語文化演習(ドイツ語)」を対象としている。「ドイツ語初級」は法学部対象科目で受講生は38名、「地域言語文化演習(ドイツ語)」は工学部対象科目で受講生は48名であった。

この授業では、学習者が学習したドイツ語を話す場面をビデオ撮影し、Moodle上にアップロードしてお互いに評価することをタスクにしている。4人程度のグループをつくり、各グループにデジタルビデオカメラを用意して同時並行で撮影を行う。撮影したビデオはMoodleのフォーラム上にアップロードする。撮影したビデオを、相互評価し、予め用意したアンケート項目に答える形でドイツ語や気になる点を報告しあう。ビデオ撮影は1 Semesterに2回行い、普段の授業はビデオ撮影に向けてグループワークを中心に準備を行う。

2. Moodleと「日誌」について

MoodleはMartin Dougiamas氏が開発したオープンソースのe-learningプラットフォームで、2010年12月現在の最新バージョンはMoodle 2.0になっている。PHPとMySQL, PostgreSQLなどのデータベースが利用できるPC、サーバー環境で比較的手軽に構築できる。標準機能以外にも様々なモジュールも開発され、非常に高機能になっている。

「日誌 (Journal)」はMoodleに標準添付されているモジュールのひとつで、Moodle 1.3以降のバージョンで利用できる。モジュールの説明には

This module allows a teacher to ask students to reflect on a particular topic. The students can edit and refine their answer over time.⁴⁾

とあるだけで、オンラインヘルプにも「日誌」に関する記述はない⁵⁾。また、Moodleのディスカッションボードでは、Moodleの最新バージョンであるMoodle 2.0ではJournalが動かないという報告や、他のonline text assignmentを勧める記事もある⁶⁾。

「日誌」の特徴は、学生が教員と1対1でコミュニケーションできるという点にある。E-mailやmixi, FacebookのようなSNSでも同様のコミュニケーションを実現できるが、「日誌」はメッセージの確認や整理がしやすく、また過去のメッセージも一覧できるという点で優れている。また、「日誌」は書き込みの締切を設定することができる。筆者の場合は授業の7日後に設定し、週に一度だけメッセージを交換するという形をとっている。SNSではこのような締切を設けることはできない。いつでもメッセージのやりとりをすることができるような環境ではなく、週に一度の非常にのんびりしたやりとりであるため、教員にも学生にもそれほど大きなストレスにはならない。

「日誌」を開くと、教員からのメッセージが表示され、その下に記入欄が現れる。HTMLフォーマットでの記述もでき、画像の貼り付けも可能である。(図1)



図 1

また「日誌」にはフィードバック欄があり、教員は個々の学生に対してメッセージを送ることができる。(図2)

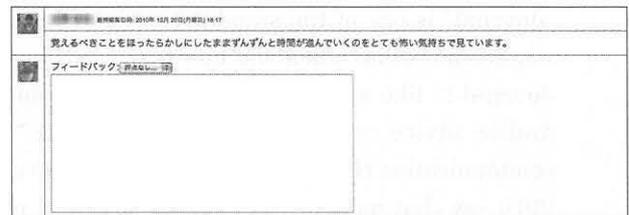
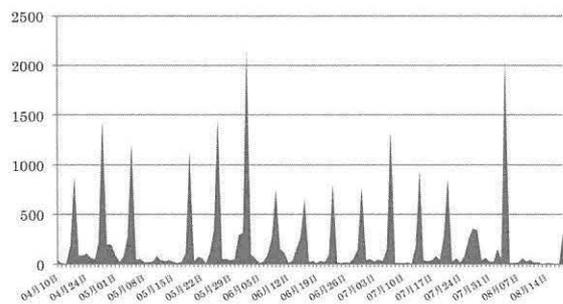


図 2

3. Moodle および日誌モジュールへのアクセス状況

2010年度前期はMoodleを使用したクラスが2コマあったが、ここではそのうちの1コマ(火曜日1時間目・法学部対象)のアクセス状況を紹介します。2010年12月10日現在のこのコースへの総アクセス数は26,279であるが、教員・TA・ゲストによるアクセス数を差し引いた受講生によるアクセスは21,999件になる。受講生は39人なので、ひとり平均564アクセスとなる。Moodleへのアクセスはグラフ1のようにになっている。

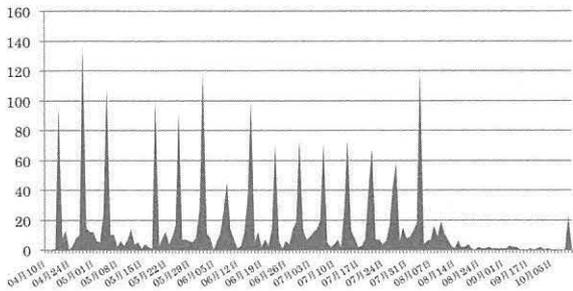


グラフ 1

2010 年初級ドイツ語前期 Moodle へのアクセス状況

CALL教室でMoodleを利用しながら授業を進めているため、毎週授業時にピークが来ているが、その前後にも山があることから授業準備や復習にもこのシステムが使われていることがわかる。2000アクセスを超える山

が2回あるが、これはビデオ撮影後の評価作業の時期に当たる。

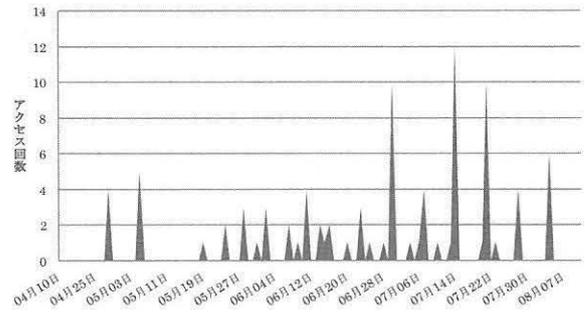


グラフ 2

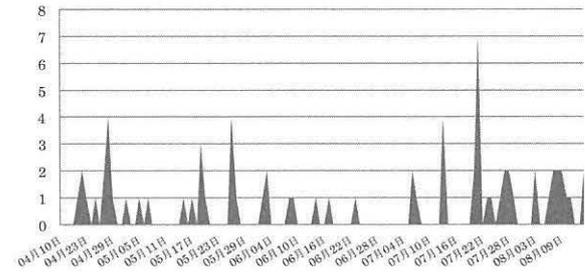
2010 年初級ドイツ語前期 「日誌」へのアクセス状況

「日誌」は毎回授業終了後1週間以内に書くように指示している。3分の2ほどの学生は授業の当日に書いているが、締切直前に書く学生も数名いる。学生は他の受講生の「日誌」を見ることはできない。グラフ2からは授業時間中に2回程度「日誌」を開いていることがわかる。おそらく1回目は教師からのフィードバックの確認、もう1回はその日の書き込みだと思われる。授業最終日は7月27日だったが、最終授業の日誌締切日の翌日である8月3日に大きなピークがあり、その後の夏休み中も「日誌」へのアクセスがあるという点は興味深い。また、10月に入って後期2回目の授業前後にもアクセスが記録されている。後期用のコースは前期とは別に設置しているため、前期のコースへのアクセスは偶発的なものではないと考えられる。

さて、800アクセス以上の学生が合計6名いたが、最も多かったのは1213アクセスの学生Aであった。学生Aの「日誌」へのアクセス状況はグラフ3のようにになっている。学生Aは、後半になってから「日誌」へのアクセスが増加している。先にも述べたとおり、「日誌」は自分の書き込みと教師のフィードバックしか見ることができないので、おそらく過去の「日誌」を繰り返し見ているものと思われる。「日誌」への書き込み量はそれほど多くはないが、教師への質問が多く含まれており、フィードバックとして簡単な文法説明を返信しているため、過去の書き込みが参考になっているのであろう。



グラフ 3 学生 A の「日誌」へのアクセス状況



グラフ 4 学生 B の「日誌」へのアクセス状況



図 3

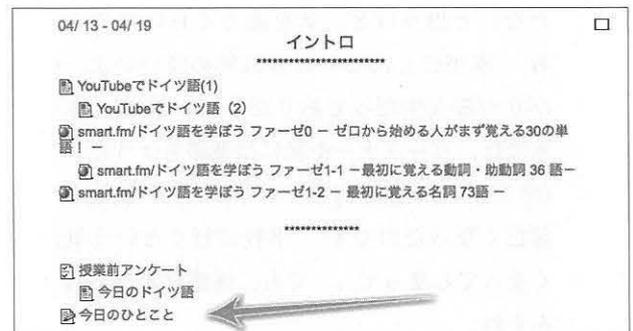


図 4

一方学生Bの場合は、アクセス数は813で学生Aと比べて少ないが、「日誌」への書き込み量は非常に多い。

ほとんどの学生は1回につき3～5行程度だが、学生Bは、授業についての感想や学習内容についての質問やコメント、学習の進行状況など詳しく書いている。教師からも書き込みに対するコメントや解説をフィードバックしており、学生Bとのやりとりは、「日誌」15回分で1万字を超えていた。

Moodleには、日誌モジュールへのアクセス方法はふたつある。ひとつは、各コースの左上に表示される「活動」にある「日誌」(図3)と、週区切りで表示されるブロックにつくる「今日のひとこと」というリンク(図4)である。「今日のひとこと」をクリックするとその日の「日誌」を書くページが表示されるが、「日誌」の場合には、これまでの自分の書き込みと教師からのフィードバックを一覧できるページが表示される。ほとんどの学生は「今日のひとこと」から書き込みを行っていたが、学生Bは「日誌」をクリックして書き込みを行っていたことが記録に残っている。

学生Cは再履修生である。グラフ5を見てもわかるとおり、決して真面目に出席していたとは言えない。2回程度参加しては欠席するというパターンが見られるが、最終授業の前あたりからアクセスが増え、授業終了後も頻繁にページを見に来ている。学生Cのアクセス状況と「日誌」へのアクセス状況をみると、6月半ばにある36アクセスのうち20が「日誌」へのアクセスであった。この2週間で以下のようなやりとりを行っていた。

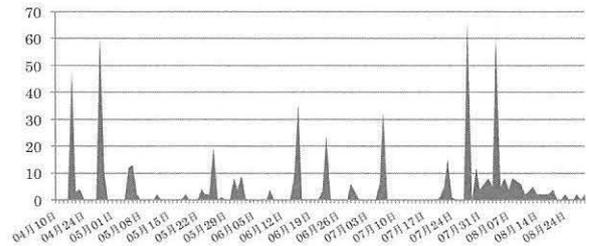
- ◇ (学生C) 最近いろいろあって精神的に病んで遅刻したり休んだりして迷惑かけてます。ビデオのときに遅刻したのは申し訳なかったです。ひとこともかけてない時も…

フィードバック：

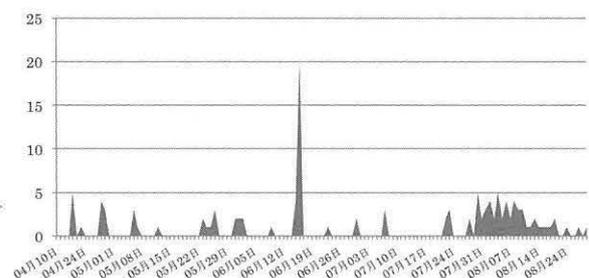
どうしたの？ なにかあった？？ なんの役にも立たないと思うけど、話を聞くくらいはできるから。本当にしんどいときは休めばいいよ。のんびりやる人生だってありだしね！ ただ、休むときには、パートナーや私には連絡ちょうだい

- ◇ (学生C) 6/8追記 病んでるのは○大の友達がこの前亡くなったのです… 学校に行くという気がなくなってしまっ。でも、迷惑はかけられませんよね
- ◇ (学生C) すみません…休むのを連絡できなかったです このままだと点数がもらえなくてまた単位落としそうです… パートナーにも迷惑かけたくないので来週からはできるだけ休まないように

します。最近病んでる理由は前のひとことに追記しておきました。…あまりこういう場で書けるような内容では無いですが、何も理由なしにただ無断欠席は駄目だと思ったので。ただ、これは精神的な問題なので欠席理由どうこう言えません。休んですみません



グラフ5 学生CのMoodleへのアクセス状況



グラフ6 学生Cの「日誌」へのアクセス状況

フィードバック：

わかりました。わたしも友達をなくしたときは、授業しながら耐えられなくなって泣いたことがある。つらいね。この場ではみんないろんなことを書いてますよ。失恋の話なんかもある。もし書いてみようかなと思ったら、なんでもどうぞ。

学生Cはその後しばらく「日誌」にはアクセスしていたが書き込みはなかった。しかし最終授業前に復活し、終了後はほぼ毎日「日誌」にアクセスしている。筆者は最終授業終了後、採点などに追われてフィードバックをしていなかったのだが、学生Cはなんらかの返信を期待していたのかもしれない。

4. 「日誌」の内容について

「今日のひとこと」は、まず教師からのメッセージを表示し、それに対して学生が答えるという形をとっている。「好きなことを書いてください」と言っても何を書けばいいのか困るし、「難しかった」とか「楽しかった」というような紋切り型の書き込みが増えると想像できる

ため、このようにしている。例えば、

- ◇ 1学期も2週間目に突入。大学の空気に慣れてきましたか？ドイツ語はどうでしょう？先週覚えた(つもの)フレーズは頭に残っていませんか？今日も、印象に残ったこと、疑問に思ったことなどいろいろと書いてくださいね。(2回目の授業・2010年4月)
- ◇ 文法的には動詞の現在人称変化が入ってきて、単語もたくさん出てきました。そろそろビデオ撮影の準備が始まったということですね！！梅雨になる前に、外で授業してビデオ撮影するのも良いかもしれないなと思いました。覚悟の程はどうでしょう？どれくらいドイツ語がからだに入った感じがしますか？(5回目の授業・2010年5月)

のように、学生の感想や学習状況を報告させるような問いかけをすることがある。また、

- ◇ シナリオ無しでやるビデオ撮影も、今日のような感じで練習すればやれそうな気がするのですが、みんなの印象はどうですか？あなたがどうしても覚えられないな～と思うドイツ語を書いてください。今回は、iPod touch⁷⁾を辞書がわり、旅行会話ガイドブックがわりにつかってみようと思いました。文字もできるようにしてみました。活用の仕方が難しいなと思ったのですがみなさんはどんな感じですか？もっとこうしたほうが使い易いということがあったら教えてください。(10回目の授業・2010年6月)

のように、授業方法についての意見・感想を求めることもある。さらに、

- ◇ ビデオ撮影が終わりました。「難しい」、「こんなの無理」と言いながら本番を迎えた人も多いと思いますが、これまでの努力の成果を出すことができましたか？うまくできた点、できなかった点を書いてください。(15回目の授業・2010年7月)

のように、具体的な問題点を文字で残すように促すこともあった。

このような問いかけに対して、学生からは毎回さまざまなメッセージが送られてくる。「次回はもっと頑張ります」というような宣言文を返してくる学生も少しはいたが、概ね3行から5行程度のメッセージが書かれている。必ずしもこちらの問いかけに対する答えが返ってく

るとは限らないが、基本的には本人が伝えたいことを書き、それをベースにコミュニケーションがとれれば良いと考えている。

以下、内容に応じて分類しながら紹介する。

授業について：

- ◆ 動詞の変化がややこしいです。全部一緒にいいやん!!!とか思ってしまいます。楽しいですけどね、ドイツ語。でも難しいなあ(。)(女)
- ◆ You Tubeで発音を繰り返し聞き⁸⁾、ややこしいアルファベットをやっと覚えられてきたかと思えば、今日は二桁の数字を勉強し、また混乱してきました・・・・・・・・・・0～9でさえまだ覚えきれていない数字もあったのですが、今日皆で発音したときに皆覚えているようだったので焦りました。もっとがんばろうと思います。(女)
- ◆ もう少し文法についての授業をしてほしいです。(男)
- ◆ やっとドイツ語の“授業”らしいことをやった気がする。(男)
- ◆ 名詞を覚えるのは漠然としすぎて難しかったです。(男)
- ◆ まだまだドイツ語には慣れず、正直嫌になりそうなんですけど…ここで踏ん張ってなんとか懲りずに頑張りたいです。(男)

ビデオ撮影について：

- ◆ 結局、ペアの友達と我が家で、泊まり込み練習をしました!!笑 家での練習中は「明日は一発撮りでも大丈夫だ」と自信満々だったのですが、いざ撮り始めると緊張でガタガタでした。(女)
- ◆ 自分は、思っているより小さいんだとすごく思いました。声は、低い声をしているなあと思いました。(男)
- ◆ やっているときは大きな声で話していたつもりでも、あとからビデオを見ると普通に聞こえていました。自分自身の感じ方とまわりからみえる自分とはどうやら色々と異なるようです。(女)
- ◆ 自分のニヤニヤ顔は言うまでもなく、声はもっと気持ち悪かったです。ええー?!私もっとマシな声出してると思ってたのに。。。みたいな。(女)

先にも述べたとおり、この授業では、学習したドイツ語を話す姿をビデオに記録している。普段、自分の姿を

客観的に見る機会のない学生に取って、自己イメージとのギャップにはショックを受けていることがわかる。ビデオを見た上で、自分の気づきを文字に残すことで、その気づきが意識化され、次の撮影ではその気づきを活かし、声を大きくしたりや表情やボディランゲージを意識することを目標にしている学生も多くいた。

近況報告やプライベートな話：

- ◆ 現役の一回生にまだ若いです、って言われたんで何とかやっていけそうです（笑）（男 再履修）
- ◆ ボランティアで先日小豆島まで行って、ダム問題についての集会とデモに参加してきました。住民の人たちとふれあい、またダム建設の何が間違っているのかをはっきりさせて自分の中で考えが固まったので良かったです。（男）
- ◆ ゴールデンウィークは香川に帰省しました。久しぶりに母の手料理を食べて、美味しさにちょっと泣きそうになりました。大阪に帰ってきてしばらくは寂しかったです。（女）
- ◆ サークル活動に没頭してます。正直勉強は全然していません（笑）演劇サークルなんですけど、本当に楽しいんですよ。いい先輩といい同級生に恵まれました。何でも話せる、相談できる先輩、同級生がいて、恋の話をしたり、愚痴を聞いてもらったり、癒されています。ちなみに土曜に飲み会があって、その時は「人を好きになるって何？」ということについて語り合いました。（男）
- ◆ ゴールデンウィーク前に彼女に一方的にふられて傷心し、休みの間はその子のことばかり考えてしまうので、バイトをずっと入れてました。……（男）
- ◆ ここ最近風邪がっこうに治らず、下宿の負の側面を味わい親のありがたさが身にしみました。（男）
- ◆ ビデオ撮影は地味に緊張しそうだ・・・ちゃんと覚えてきたい。ようやく軽音でもバンドを組め動き出しそうなのでなかなか忙しくなりそうだ。（男）

日常生活の過ごし方が学習に影響を与えることは言うまでもない。もちろん悩み事や困ったことがあっても教師として何かできるわけではないが、このような形で気持ちを表現したり自分の近況を書くことで、学生たちの授業に臨む態度も変わってくるように思われる。

学生からの書き込みには必ずコメントを返すようにしている。学生からの質問があればフィードバック欄で解説することができるし、必要があれば翌週の授業の際にクラス全体で考えるチャンスにもなる。授業とは関係ない日常生活でのちょっとした話題でも、パーソナルコンタクトをとるきっかけになる。3章で紹介した学生Cのケースのように、授業や学生生活についての悩みが書かれていれば、わずかでも支えになることができるかと思う。

10回目の授業に対する「日誌」のやりとりで次のようなものがあった：

- ◆ 確かに、今回の会話の感じでビデオ撮影をすることは、やってできないことはないと思いますが、もちろんのこと、今のままでは無理です。道案内に必要な単語をまだ覚えていないというのがありますが、語順などの文法的要素もまだ頭に入っていないので、頭の中で文を構成して、声に出して会話するのはなかなか難しいです。単語がわからないのであれば、調べれば何とかなるのですが、知らない前置詞などが出てきた場合に、それを込みで理解するのは厳しいです。英語と同様に、前置詞といったものは、会話の流れの中ではあまり重要視されないことは分かっているのですが、やはり気になってもやもやします。

フィードバック：

前置詞が気になるんやね。

わかった。今度簡単に説明します。

今回文法として理解しないといけないのは、4格の部分です。あとはほぼ機械的に語を置き換えながらやっているとします。

これまで英語で文法を意識することを叩き込まれてきているからものすごく抵抗があると思うけれど、とりあえずパターンで頭にいれてみたらどうかな？

- ◆ ビデオ撮影なんて無理じゃないですか・・・自信がないです！
ドイツ語というか冠詞の変化と複数形の変化が一向に覚えられません。
丸暗記するしかないのでしょうか（笑）

フィードバック：

丸暗記でいいかという良くないです（笑）
暗記したものをちゃんと活用できないと覚えた意味がないからね。

今回の場合は、HPで赤字で書いている部分をうまく置き換えながらしゃべれるかということがポイントです。

冠詞の変化も覚えてもらいますが、書くときには正確に書けるように頑張ってください。しゃべるときは多少ごまかしてもOK! なめらかにしゃべることに重点をおいてください。

時々、授業中に見る姿と「日誌」のメッセージが一致しない学生がいる。授業中は無口でひとりでも静かにしているある学生が、「日誌」に長文のメッセージを送ってくることもある。授業中に直接話をするのは少なかったが、どこがわからないか、何に困っているかが「日誌」を通してよく伝わってきた。

5. 終わりに

本稿では、Moodleの日誌モジュールの活用事例を報告した。筆者が日誌モジュールによる「今日のひとこと」をはじめ6年ほどになるが、この間の学生とのやりとりを振り返ってみて、特に1年生前期の学生は教員やTAとのコンタクトを求めているということを改めて実感する。しかし、授業中の限られた時間内で学生ひとりひとりと話することは困難であり、授業が終わったあとも、教室移動や食事のために話をする余裕はほとんどない。このような問題を解決する方法のひとつとして、「大福帳」のように効果を上げている方法もある⁹⁾。大福帳をオンライン化した「e大福帳」の活用事例と同様に、Moodleの日誌モジュールによる教員とのこのようなやりとりは「心理的な距離を縮め、BBSのような公開の場では書きにくいことも気軽に書くことができる¹⁰⁾」ことが確認できた。

最後に、数年前にあったケースだが、友達の前では元気な顔をしているけれど、親の経済状況が急変して仕送りが来なくなりまともな食事をとっていないということが「日誌」を通してわかったということもあった。「日誌」は、授業を振り返るきっかけになっていることは言うまでもないが、教員と学生をつなぐ小さな窓口としての機能を果たしていると言えるのではないだろうか。

謝辞：本研究・授業実践は、平成20年度～22年度科学研究費補助金基盤研究C（課題番号20520498）の助成を受けた

参考文献：

- 井上博樹、奥村晴彦、中田平『Moodle入門 オープンソースで構築するeラーニングシステム』海文堂、2006。
熊井信弘、境一三ほか「Moodleを活用した外国語学習支援」2006 <http://web.hc.keio.ac.jp/~skazumi/LET06Moodle.pdf>
向後千春「大福帳は授業の何を変えたか」日本教育工学会研究報告集23-302006
向後千春「eラーニング授業でコミュニケーションカード「e大福帳」を使う」2007
品川恭子「Moodleを利用した協働学習コミュニティ」関西外国語大学留学生別科日本語教育論集18号2008
濱岡美郎『Moodleを使って授業する！ なるほど簡単マニュアル』海文堂、2008。

注

- 1) WebCTは現在はBlackboardと統合しており、Blackboard Vistaと呼ばれるバージョンになっているが、大阪大学では導入当初からWebCTと呼んでいるため現在でもその名称を使っている。
- 2) 2010年10月の大阪大学全体の統計では、ファイルは7万セッション、「課題」（レポート提出）は3万セッションほどあるのに対し、アセスメントやディスカッションは各1万セッション程度であった。
- 3) 熊井ほか「Moodleを活用した外国語学習支援」2006、三重大大学のMoodle学習会の報告（PPT）、Moodleサイトのディスカッションボードなどで若干利用されていることはわかるが、これに関する事例報告は見つけられていない
- 4) <http://moodle.org/mod/data/view.php?id=13&rid=325&filter=1>（2010年12月20日現在）
- 5) Moodle ver.1.9にて確認。
- 6) <http://moodle.org/mod/forum/discuss.php?id=160866>（2010年12月20日現在）
- 7) Apple JapanからiPod touchを40台借用し、6月から7月にかけて授業での活用実験を行った。
- 8) YouTubeには様々な映像教材が掲載されている。ドイツ語学習に役立つようなものについては、<http://dafmov.rockys.name/>で紹介している。
- 9) 向後千春「大福帳は授業の何を変えたか」
- 10) 向後千春「eラーニング授業でコミュニケーションカード「e大福帳」を使う」